

## H18年度から新しく始まる注目の特設テーマ科目

### 「津軽学 — 歴史と文化」への誘い

21世紀教育センター 土持 法一

#### はじめに

『東奥日報』（2006年2月5日、朝刊）に、「『津軽』丸ごと学問に」の見出しで、4月から開講される「21世紀教育特設テーマ科目」が紹介されました。法人化後、弘前大学独自のカリキュラムを目指していただけないだけに、幸先のよい「津軽丸」の船出となりました。新聞でも報道されていたように、この授業科目は、弘前大学でなければ作れない独自のカリキュラムであって、「津軽の歴史と文化」をどのように学問的に体系づけ



られるか、内外から注目されています。この授業のカリキュラムの特徴は、ユニークな講師陣にあるといえます。いずれの講師も弘前大学もしくは津軽を代表する方ばかりです。この授業は、講師が教壇から一方的に講義するのではなく、学生による参加型学習を目指し、授業では「実演」「実習」も行われます。何よりも、本学附属図書館の「太宰治コーナー」に隣接して、新たに「津軽学コーナー」が設けられていることです。このコーナーでは、この授業に関連した弘前大学出版会から刊行された「津軽シリーズ」の著書のほか、ビデオおよびカセットテープ、さらに、旧制弘前高等学校の青春を描いた『弘高青春物語』（絶版）のビデオなどが準備され、「津軽学」について徹底的に学ぶ体制が整えられています。以下、「津軽学—歴史と文化」

とはどのようなものか、その概略を説明します。

#### 授業の趣旨

文化人類学者・青木保氏は、日本文化を「混成文化」と名づけ、三つの文化層の重なりで形成され、日本古来の土着文化の「神道」、アジアの大伝統の文化の「儒教・道教や仏教」に示された古代中国・インド文明の影響、そして、西欧近代文化あるいはアメリカ文化にあらわれていると述べています。

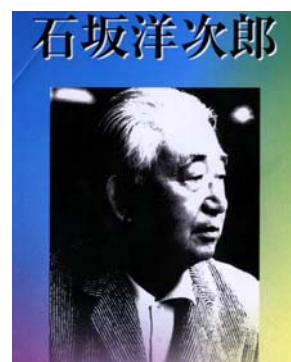
「津軽学—歴史と文化」の授業も、このような幅広い視点に立った「教養文化」を目指します。「灯台下暗し」と言われるように、我々は、郷土の歴史や文化について案外知らないものです。これでは、良識ある社会人になれません。弘前大学では、「世界に発信し、地域と共に創造する」をモットーとしているのですから、これから社会に、そして、世界に羽ばたくためにも、津軽の歴史や文化に誇りが持てる「国際人」でなければなりません。グローバルな社会であればこそ、しっかりとしたアイデンティティが必要になってくるのです。

この講義は、オムニバスによる授業を通して、「津軽の歴史と文化」に焦点を当てます。たとえば、弘前藩の庶民の当時の生活はどのようなものであったか、弘前の夏の夜を彩る弘前ねぶた絵、津軽塗り、津軽三味線など、さらに、弘前大学前身の旧制弘前高等学校における「高等普通教育」とはどのようなものであったかについて学びます。また、「津軽の文学」は、日本文学史のなかに独立した章が立てられるほど知名度が高いものですが、そのような文学を育んだ津軽の風土とはどのようなものだったのか。卒業生の文豪・太宰治の青春はどんなものであったのか。石坂洋次郎の小説『青い山脈』には、敗戦時期の地方都市（弘前）の学校における民主化への葛藤がどのように描かれているのか等々、青森県の高校の教員との高大連携によって、幅広い教養を身につけることを目的とします。



## 授業内容

- 「弘前ねぶた絵の歴史および実演」  
(八嶋龍仙・津軽伝統ねぶた絵師)
- 「津軽三味線の歴史および演奏」  
(笹川皇人・津軽三味線奏者)
- 「弘前藩の歴史と文化」  
(長谷川成一・人文学部教授)
- 「石坂洋次郎『青い山脈』」  
(舘田勝弘・弘前中央高等学校校長)
- 「旧制弘前高校の太宰治」  
(相馬明文・黒石高等学校教諭)



●「津軽方言詩」

(山田 尚・詩誌「亜土」主宰)

●「寺山修司の世界―寺山修司と青森―」

(櫻庭和浩・青森北高等学校教諭)

●「現在活躍中の文学者―長部日出雄, 鎌田慧, 三浦雅士を中心として」

(齋藤三千政・大鰐高等学校校長)

●「旧制弘前高校の歴史」

(前島郁雄・東京都立大学名誉教授)

●「旧制官立弘前高等学校外国人教師館と洋風建築」

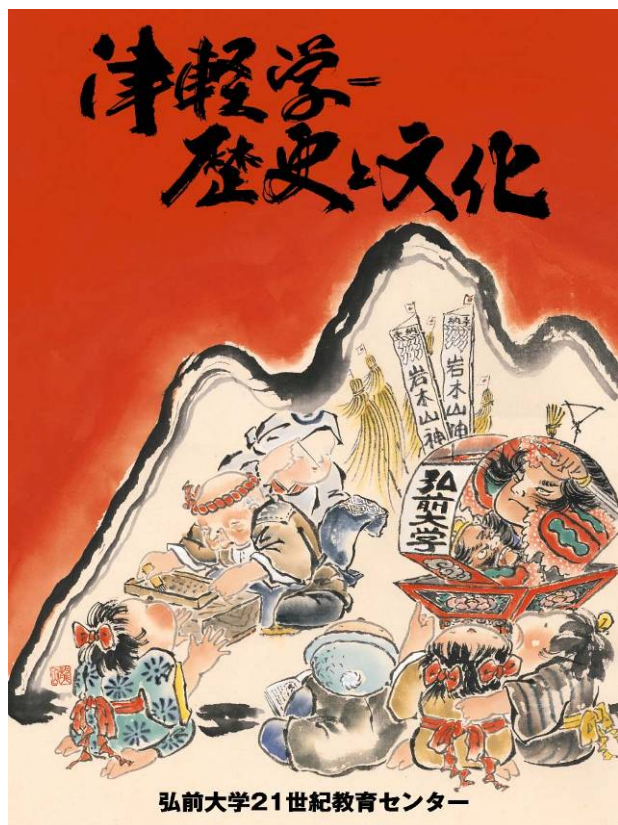
(芳野明・教育学部助教授)

●「津軽塗の文化と歴史および実習」

(佐藤武司・弘前大学名誉教授)



おわりに



「授業の趣旨」のところでも述べたように、弘前大学は、「世界に発信し、地域と共に創造する」をモットーに掲げているのですから、これから社会に、そして世界に羽ばたくためにも、津軽の歴史や文化に誇りが持てる「国際人」が求められます。グローバルな社会であればこそ、確固たるアイデンティティが必要なのです。

なお、講義内容についての詳しい説明は、『21世紀教育フォーラム』（弘前大学）（創刊号、2006年3月）を参照にしてください。

このポスター画は、ねぶた絵師八嶋龍仙氏に特にお願いして描いて頂いたものです